

## 学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制支援学校 高等部（知的障がい・肢体不自由） 小、中学部（肢体不自由）
取り組む課題	児童・生徒の学力の充実 E 児童生徒の自立支援
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等における図書室利用状況の増加</li> <li>・年間の本の貸し出し数の増加</li> <li>・DAISY図書・紙芝居・パネルシアター・読み聞かせ等を活用した授業や休み時間等の図書室利用件数の増加</li> <li>・センターの機能を発揮した学校外支援件数の増加（地域連携と情報発信）</li> </ul>
計画名	BOOK FOREST ～おはなしの森～ プロジェクト [さまざまな障がいや発達段階の児童生徒に応じた読書環境の基礎的環境整備]

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 子どもの障がいに応じた支援を図るための、教員の専門性の向上と授業改善の工夫</p> <p>(2) 関心を持って、創造力を豊かにする読書環境の充実と、子どもの主体的に「生きる力」を育む読書活動の推進。</p> <p>4 関係機関との連携強化による開かれた学校づくりと支援学校のセンター的機能の発揮</p> <p>(1) 支援チームで巡回相談や教育相談や講師派遣を展開し、障がいのある子どもが地域で学ぶ体制づくりを推進。</p>
事業目標	<p><b>児童生徒一人ひとりの自己肯定感の向上と生きる力を高めるための読書活動・読み聞かせ活動ができる基礎的環境整備</b></p> <p>「第3次大阪府子ども読書活動計画」の基本方針に基づき、本に親しみ読書の楽しさと大切さを知り自発的な読書活動や読み聞かせ活動を行うことができる環境整備に取り組む。</p> <p>1 重度重複の障がいのある児童生徒が様々な感覚を使って読書活動・読み聞かせ活動できる「おはなしスペース」の整備。</p> <p>2 様々な障がいや発達段階の児童生徒に応じた書籍（DAISY図書や視聴覚教材を含む）の準備と読書活動の推進。</p> <p>3 読字に困難がある印刷物障がいの児童生徒のためのマルチメディアDAISY等の読字支援アプリによる読書支援。</p> <p>4 ページをめくることが困難な運動障がい児童生徒のためのDAISY図書・電子書籍と自動具等を組み合わせた環境設定。</p> <p>5 書画カメラ等を導入した視覚支援によるグループ学習の推進。</p> <p>6 地域の幼稚園、小学校、中学校、高等学校等に在籍する印刷物障がい等の幼児児童生徒に対する相談支援体制の構築</p>
整備した 設備・物品(数量)	<p>○書籍関係 絵本570冊 DVD 28本 デジタル図書 102枚</p> <p>○視聴覚関係 プロジェクター(1) プロジェクタースクリーン(1) スピーカー(1) 2Uパワーアンプ(1) アナログミキサー(1) マイクケーブル(2)</p> <p>○書棚等 雑誌架(1) 片面傾斜書架3段(4) 片面傾斜書架2段(2) ブックトラック(2) 大型絵本専用棚(1) パネルステージ(1)</p> <p>○ICT関連 タブレット端末(4) iTunesカード10,000円(4)</p> <p>○施設設備改修関連 出入口を引き戸に改修 車椅子での利用可能な手洗いに改修 床面の一部をカーペットに改修 カーテンレールの設置 遮光カーテン(6) サッシの塗装 壁面、天井クロス張替 中央柱を樹木調に造作 照明器具を調光機能付きのLEDライトに改修</p>
取組みの 担主・実施者	<p>・総務：教頭2名・事務：事務長、主査</p> <p>・基礎的環境整備・業務等統括：首席4名</p> <p>①教務部・研修部 ②支援部・自立活動部・文化情報部視聴覚係 ③生活指導部 ④進路指導部</p> <p>⑤ボランティア活用等 ⑥授業等における活動推進（各学部/課程 部主事・部代表、学年、担任団）</p>
本年度の 取組内容	<p>1. 他機関との連携</p> <p>○大阪府立中央図書館</p> <p>①6月に障がい者支援室・子ども支援室の担当者に改修に向け以下のアドバイスを受ける。</p> <p>1. 障がいのある方の施設設備に関する配慮について（室内環境・色・照明等）</p> <p>2. 図書の配置（レイアウト）の仕方</p> <p>3. お勧めの絵本・デジタル図書・DVD等のリスト</p> <p>4. 蔵書管理の方法について（貸し出し業務・ネットワーク等）</p> <p>5. 読み聞かせ研修等</p> <p>②手作り面展覧の活用について</p> <p>③1月26日（木）昼休み お話の会の開催について（児童生徒 約25名と教員が参加）</p> <p>④デジタル図書に関する研修や読み聞かせ研修の案内</p> <p>○東住吉支援学校</p> <p>8月に図書館システムを導入している学校を訪問し視察と以下のアドバイスを受ける。</p> <p>1. バーコード管理の導入について</p> <p>2. 図書室の蔵書管理や貸出業務について</p> <p>2. 校内の取組みについて</p> <p>夏休み 書籍整理(廃棄も含め) 改修に伴う書架移動等 新図書室へ書籍および書架移動</p> <p>10月 システム導入 今年度購入書籍よりバーコード貼付および蔵書リスト作成、利用者リスト作成</p> <p>冬休み 購入した書架を設置 書籍再整理</p> <p>3月 書籍の整理・蔵書リストの作成、蔵書管理・貸出管理システムの構築について完了</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>①学校教育自己診断アンケート(保護者・教員向けによる評価)結果を昨年度よりあげる</p> <p>②児童生徒への聞き取りを含むアンケート評価</p> <p>③活用状況調査</p> <p>[現在は、車いすから降りて自由に本や視聴覚教材を活用できる環境が整っていないため室の活用が少ない。]</p> <p>・改装後の授業日数等図書室利用状況を前年度26.3%から、整備後初年度80%をめざす。</p> <p>・前年度の学校図書標準達成状況は小学部55.4%、中学部34.0%である。</p> <p>蔵書数を増やし年間の本の貸出冊数を前年比50%の増加をめざす。</p> <p>・学習障がい等の児童生徒のタブレット稼働率50%以上をめざす。</p> <p>・昨年度、副読本の電子化に関する相談が2件あった。それを10件以上に伸ばす。</p>
自己評価	<p>※(記号説明) 大きく上回った(◎)、上回った(O)、達成できず(△)、実施できず(X)</p> <p>今年度は、基礎的環境整備の図書環境の充実が主な取り組みとなった。</p> <p>①学校教育自己診断アンケート(保護者・教員向けによる評価)9月時点では、肯定的回答が昨年度より微増 保護者38% 教員43%(O)</p> <p>②児童生徒への聞き取りを含むアンケート評価 今年度は、古い蔵書の整理と新規購入図書のバーコード管理システム構築により児童生徒の自由な貸し出しを制限せざるを得ず、そのため児童生徒の聞き取りを含むアンケートも実施できなかった。(X)</p> <p>③活用状況調査</p> <p>・改装後の授業日数等図書室利用状況を前年度26.3%から、整備後初年度80%をめざす。(△)</p> <p>⇒年度当初授業での使用教室は決まるため整備後でも大きな変動はない。ただし学級活動中での使用や「みるきく」等の授業での単発の使用は増えている。</p> <p>・今年度の学校図書標準達成状況は小学部68.0%、中学部42.6%である。年間の本の貸出冊数を前年比50%の増加をめざす(△)。</p> <p>⇒図書室整備のため、閲覧のみで9月より本の貸し出しを休止する時期があったため、前年度との冊数の比較は出来ない。</p> <p>・学習障がい等の児童生徒のタブレット稼働率50%以上をめざす。</p> <p>・副読本の電子化に関する相談は2件の継続相談のみで新たな相談はなかった。(△)</p>
次年度に向けて	<p>・校内研修の実施（機器の使用・管理、読み聞かせ、デジタル図書、見る・聞く・姿勢づくりなど）：今年度末に各分掌で総括を踏まえ4月より実施</p> <p>・図書室の管理、運営業務の充実に向けての校内体制を確立 各学部の司書教諭を明示し教務部所属とする。児童生徒貸出業務は生活指導部児童生徒係りの担当とする。ボランティアや人材バンクを活用した図書室整備の充実（5月より）</p> <p>・バーコードによる貸し出し業務の開始、貸出の推進（4月より）</p> <p>・校内外へ蔵書および視聴覚関連物品の周知と活用の推進（4月より）</p> <p>・PTAにむけて情報発信(5月より)</p>